

ノンフィクションの楽しみ

経済学部教授 古川卓萬

この10月に入って、遅ればせながら、本田靖春氏の『不当逮捕』（講談社文庫）を読んだ。この本は、昭和59年の講談社ノンフィクション賞の受賞作品であって、すでに評価の高い読物である。

事件は、昭和31年5月12日、第24国会で成立した売春防止法の実施延期にからむ政界の汚職事件の報道において、32年10月24日、読売新聞の記者立松和博が名誉毀損容疑で逮捕された所から始まる。立松は、昭和23年秋の昭電疑獄の報道で、「抜いて抜いて抜きまくった」と後の語り草になる華々しい連続スクープをものにした花形事件記者であった。しかし、32年の売春容疑では、業者団体の証拠湮滅が徹底し、捜査線上に浮んだ30人近い国会議員の疑惑は、ほとんど解明されず、記事取消しという読売新聞側の全面的敗北で終る。立松も、懲戒休職となり精神的に再起不能の打撃を受けたのである。

多彩なエピソードに豊むこの作品の筋書だけを、これ以上紹介してみても仕方がない（なお立松は朴烈大逆事件の予審判事立松懐清の次男

である）。問題を、「政府対新聞」（田中豊・中公新書）の関係で捕えてみると、政府内部（この場合には検察庁）のニュース・ソースに頼って特ダネをものにする立松のやり方はすでに一昔前のものであり、やがて *investigative reporting*（事実の積み上げによる報道）という新しい報道の手法が開拓されていく（この変化を、立松の後輩である本田氏は、愛惜の念をこめつつクールに分析している）。

政府相手の報道で、マスコミがそれなりの覚悟を求められるのは当然であろう。立松事件のように、わが国のマスコミの体質はかなり妥協的である。だが、「情報に通じ、しかも自由な報道機関なくして、啓発された国民はありえない」（1971年6月30日、米国国防総省秘密文書事件でのスチュアート判事の意見書）。最近の文相、首相の相次ぐ失言は、われわれが「啓発された国民」でないことを、世界に向かって宣伝しているのだろうか。

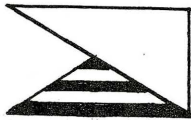
（ふるかわ たくま：財政学総論）

Contents

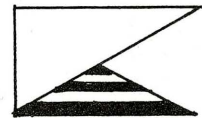
ノンフィクションの楽しみ	 1
古川(卓)教授	
私がすすめる1冊	 2
神宮助教授・三日月講師他	
ケニコット・バイブルのご紹介	 4
関谷教授	

司書への道	 5
本だって大切にしてほしい！	 6
気楽に読める専門書②	 7
河島教授	
お知らせ・ニュース	 8

読書の秋



私がすすめる 1冊



「マサダ・プラン」

レナード・ハリス著

法学部助教授 神宮 典夫

訳者のあとがき、「かの昔、ローマ占領軍に対して立ちあがったユダヤ人ゲリラの運命はネゲブ砂漠の岩山、マサダにおいて集団自決という悲劇的な終幕を迎えた」というくだりに引かれて読みはじめた一冊。もしも第五次中東戦争が勃発したら、という仮定のもとに書かれた本書は、世界終焉の危機という恐ろしいテーマを、イスラエルの国連大使、合衆国国務長官、その親友の実業家、人気女性キャスターという、主要な登場人物男女4人の、「夏物語」アメリカ版とも言えるロマンチックなミステリーに仕立て上げている。三角関係、テロ、にわか仕立てのスパイ、政治のかけひき、そして、マサダ・プランなる時限装置……。登場人物達の饒舌にいきさかうんざりしながらも、つい先を読み急ぐ。アーマゲドン(世界終末)を避けるべく、関係諸国の首脳、そして米大統領と虚々実々のかけひきをする国務長官の巧妙さ。そのかけひきのどれかひとつを失敗しても、世界は終末を迎える。秋の夜長の暇つぶしには最適の書とおすすめてできるエンターテインメントである。願わくば、これがあくまでフィクションであらんことを祈つつ、巻を閉じて眠りにつきました。

(かみや のりお：法制史)

「赤毛のアン」

ルーシー・モード・モンゴメリ著

文学部外国語学科講師 三日月雅子

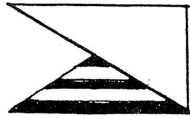
感銘をうけた、と言うにはあまりに楽しく愉快になってしまい、それ故に折あるごとに本棚から取り出す本の中に『赤毛のアン』のシリーズがあります。想像力に満ち満ちた少女の成長を軸に繰り広げられるカナダの美しい自然を背景にした人間模様は、現実の私達の生活に比べれば、ひたすらに明るく屈託のないものです。しかし、それだからこそ疲れた時や心が晴れない時に、ふと手が伸びる一冊なのです。

アンは常に独自の発想と想像力を発揮して、生き生きとそして真剣に生きています。そんな彼女の精神の基盤は、他者への優しさと純粋さなのです。純粋であること、そして自分に忠実であることに誰もが憧れます。しかし、現実の生活では、常に自分一人の純粋さを貫くことは難しく、また周囲との軋轢を生むことを私達は身をもって体験しなくてはなりません。更にはひたすらに純粋であり続けようとする、とするとその生き方は偏狭にさえなってしまうのです。

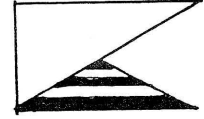
しかし、アンが、その長いシリーズを通し、純粋であり続け、そしてその純粋さが人々に愛されたのは、アンが純粋性と表裏一体として柔軟な精神を持ち得ていたからなのです。

目の前に山積みする日常生活の中での問題の対応に追われ、つい自分を見失いそうになると、私はアンのもるい純粋さと、何よりも彼女の精神の柔軟さを思い出すことにしています。精神を柔軟に保つことは、厳しい現実の中でも冷静に自分を見つめ直す機会を見逃さない唯一の方法だからです。私にとってアンが生きた夢物語の人生は、現実の生活での精神の柔軟剤となっているようです。

(みかげ まさこ：英語)



私がすすめる1冊



「ランボー詩集」

堀口 大學 訳

文学部2年 坊 山 英 浩

秋も深まり、空気の澄み渡る頃になると憶い出すのがこの本です。

高校時代最後の秋でしたか、それまで凡そ詩なぞに興味の無かった僕ですが、何気なく手にしたこの本には一読魅了されてしまいました。

彼の『ラ・ルース辞典』中、天才の名を冠せられているのはゲーテとランボーの二人に尽きるとの事です、ゲーテの端正さと違って、ランボーの文章には思わず引きずり込まれてしまいそんな魔力染みたものが有ります。感覚的造作の鮮やかさ、緻密な構成、確かな量感、そのいずれを取っても大家の趣を想わせるもので解説中に引用されている『見者の手紙』の一節など肌に粟生ぜしめん許りの迫力が有り、読む者を虜にして止みません。

又、邦訳の見事さもこの訳者ならではのもので、『ヴェルレエヌ研究』では古色蒼然たる文体に辟易したのですが、此处で大學が見せている日本語の妙には脱帽させられます。

文学史に於ては孤高の存在的ランボーですが僕にとっては近代詩のバイブルにすら思えるこの一冊です。

(ぼうやま ひでひろ：児童教育学科)

「風の詩を聴け」

村上 春樹 著

経済学部3年 下 原 千 春

主人公の「僕」が、小説中の現実を渡って行く姿には「孤独」という言葉がピッタリしている。しかしそこには情緒は稀薄である。そのことが良いことにしても悪いことにしても、だ。

「僕」にとって「孤独」は、悲しみというより前提になっている。むしろ、見つめているといった方がいいかもしれない。心の奥底に、しっかりと。そして過去の残像に振り回されることもないのだ。

そういう「僕」と、それを取り囲む人物達との関係には、何らかのズレが生じるのは、仕方のない事であろう。「ズレ」こそ、この小説のモチーフになっているのではないだろうか。

表層的なつきあい方といってしまうと、そうであるかもしれないが、「僕」達の関係には何らかのラインが、見えないところで、ひかれている。守られているのだ。

それを、「僕」達の、やさしさと言えるのではないか。

(しもはら ちはる：経済学科)

◆ 資料紹介 ◆

ケニコット・バイブル
のご紹介

神学部教授 関 谷 定 夫

ケニコット・バイブルはスペイン北西の古い港町(ラ・コルニャ)で、1476年に作製された完全なヘブル語聖書写本で、ユダヤ人富豪のイサク・デ・ブラガの依頼により、高名な写本書記モーゼス・イブシ・ザバラによって筆写され、各頁はこれまた著名な写本彩飾師のヨゼフ・イブシ・ハイムによって美しい彩飾画がほどこされている。写本は最良質のヴェラム(犢の皮)に書かれており、同じ時代に作られた表面浮彫装飾の皮装綴じ箱に容れられ、完全無傷のまま奇跡的に今日まで保存されてきた。1771年にオックスフォードのラドクリフ図書館長でヘブル語聖書本文の研究で有名なベンジャミン・ケニコット博士(1783年没)によって購入され、まもなくヨーロッパ最古の図書館の一つであるボードレアン図書館に移管され、現在もそこに展示されている。

中世以来のヘブル語の写本は豊富な彩飾画で本文の内容を具象的に説明したものが多くのであるが、聖書本文の場合は十戒の彫像禁止条項によって装飾画を極力控えるのが常道となっている。しかしこのケニコット・バイブルは、各頁に手のこんだ壮麗な彩飾画がほどこされている。これはスペインのヘブル語写本の特徴で、本文の主題に即した彩飾画というよりも、写本そのものの装飾として描かれている。写本書記と彩飾画家の仕事は密接な共同作業で、写本の中で頁全体の装飾画の数は77、欄外装飾の数は173で、写本全頁(444フォリオ約900頁)の4分

の1以上に何らかの装飾画がほどこされていることになる。欄外装飾画は聖書本文各書の最初または末尾及び各詩篇にほどこされ、聖書本文を引き立たせる役をしている。全然装飾のないのは哀歌だけである。中には聖書の装飾としてどうかと思われるさまざまなグロテスクな、あるいは神話的生物が描かれており、また笛を奏する熊の道化師とか、全身武装した猫の軍隊がねずみの城砦を襲撃している画があり、鳥羽僧正の作と伝えられるかの有名な鳥獣戯画を思わせるものがある。さらにさまざまな人物を描き、時にはヌードを描き、奥付にはヌード女性であらわしたヘブル文字を用いている。そこにはユダヤ的な宗教的堅苦しさはみじんもなく、完全に中世初期にさかのぼる世俗的伝統に従った画法であり、ゴシック式、ルネサンス式及びムーア式画風の自由奔放な混用を示している。聖書に直接関係ある人物画はほとんどなく、例外として列王記の始めの部分に王冠をいただき棍棒状の王笏を持ったダビデ王が描かれ、ヨナ書の始めにヨナが大魚に吞まれる場面が描かれている。ケニコット・バイブルは現存するヘブル語彩飾写本中、最も豪華壮麗な写本の一つであり、中世スファルディ(スペイン系ユダヤ人)芸術の一大傑作といってよい。

本学で購入したファクシミルはロンドンのファクシミル出版社で作製された550部の中のNo.146である。

(せきや さだお：聖書考古学)

司書への道

—司書講習会ご案内—

有 森 義 則



今夏、文部省の委嘱に基づいて各大学で行われる司書講習を受講する機会（於：八幡大学）を得たので、若干の感想と問題点を述べてみたいと思います。これから司書講習を受けてみよう、あるいは、司書というものに多少なりとも興味を持っておられる人の参考になれば幸いです。

まず、司書とは図書館の専門的事務に従事する者（なお、日本における厳密な意味での司書の資格、業務などは図書館法に定められている）です。そしてその資格を得る方法として、文部省の委嘱に基づいて各大学で行う講習を受講して司書の資格を得る方法、大学で図書館・情報学関係の学科目を履習する方法などがあります。前者の場合、講習の開講を希望する大学のうち一定の条件を備えた大学に文部省が委嘱する形式で、毎年夏休みに行われている所が多いようです。九州では、別府大学で毎年開講されています。

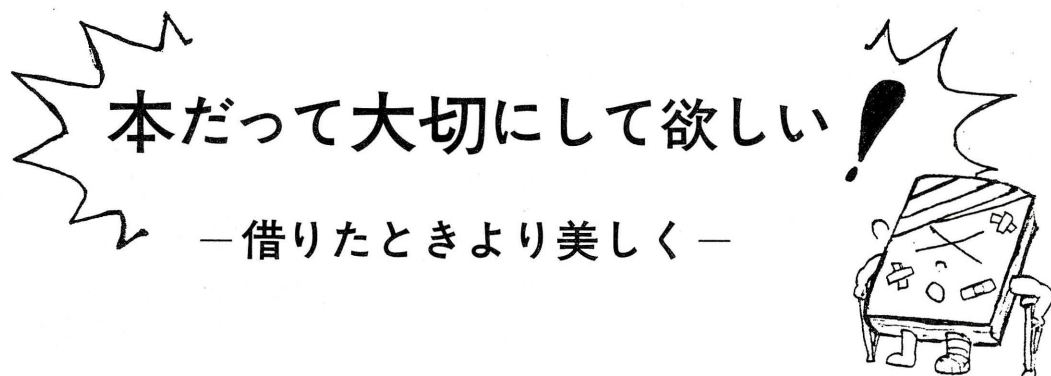
次に講習の内容ですが、各大学、開催年度によって多少の違いはあると思われますが、八幡大学での講習を例にとりますと、期間は今年度の場合7月11日から9月2日までの約2ヶ月間で、日曜（盆休み2日間を含む）を除き、朝9時から午後4時10分まで4時間（90分授業）の講義があり、日程的にはかなりハードスケジュールでした。科目数は選択科目を含めて13科目19単位で、1科目終了ごとに試験、又はレポー

トの提出が義務づけられています。そしてそれに合格すれば単位が認定され、受講した全ての科目を取れば司書の資格を得ることができます。

しかしそうむずかしいものではなく、受講生のほとんどの人が合格しています。ただ講義には出席し、きちんとノートを取ることが大切でしょう。出欠のチェックは厳密に行われますし、大学での期末試験のように人のノートを借りてうつし、講義は聞いていないということではこまりものです。というのは2～4日ごとに試験が行われ、先生によってはかなりひねくれた問題が出されることもありますので、講義はしっかりと聞いておく必要があると思われます。

さてそこで目出たく司書に合格し、資格を得るということになるわけですが、それからが問題です。既に図書館業務を行っている図書館員であれば、就職の心配はしなくていいのですが、これから資格を生かして就職の機会を得ようと思っている人達にとって、現状はなかなかきびしいようです。実際に司書として図書館に就職するケースはそれほど多くないといわれています。しかしこれからは、各種図書館の発展にともない、徐々にではありますが就職の機会もふえるものと思われます。今後に期待したいと思います。

（ありもり よしのり：情報サービス課・資料係）



皆さんは図書館の本が書棚に並ぶまでにどれくらいの手間がかかっているか、ご存知でしょうか。

本屋から届いた本はまず受入係へ回されます。ここでは原簿に記入されて、受入順に登録番号がつけられます。本の標題紙やブックポケットについているあの番号のことで、現在和漢書は309339冊受入れられたことになっています。

次に整理係のところにやってきた本は、分類番号がつけられます。ラベルについている番号のことで、三段のうち上段は図書の分類、中段は著者、下段は配列順を表しています。従ってこの番号も、一つとして同じものはありません。そして次にやってくるのが、我等が装備係のところです。ここで図書は蔵書印を押され、ラベルを貼られ、貸出カードにブックポケット、期限表も付けられて、図書館の本としての体裁を整えます。そして最後に一冊ごとに目録がとられ、これでやっと本は一人前の図書館の本となって、書架へのお目見えがかなうわけです。

このように手間ヒマかけた本は、図書館員にとっては、お百姓さんにおけるお米の如く、いわば吾が子のようなものです。ところが残念なことには、この大事な本を粗末に扱ってくださる方がたまにあるのです。

言うまでもなく図書館の本は多くの人に利用してもらうためのものです。このことを知ってか知らずか、私物の如くに線を引いたり書きこみをする人がいます。時にはラインマーカーで色とりどりにされている本もあります。直接ではなくてコピーを取った上にしてもらえば何ら問題はないのに、迷惑な話です。しかし最も甚だしいのは、図書の一部または数ページに渡って切りとられたものです。中には発見した我々が感心するくらい見事に、ページの根元からきれいに切りとってあるものもあります。まさに言語道断、です。その他しおり代わりにページを折った跡があるものや、ページがちぎれかかっていたり、醤油のしみや食べかすが入っているものもあります。いずれももうちょっと気を使ってもらえれば、次の人も気持ち良く利用できるし、本だって天寿を全うできるのにな、と思うものばかりです。

以上、思いついたことを書いてみましたが、ともかくも、手塩にかけた図書に危害を加えているような現場に出くわしたときは、我々一同手加減しないつもりなので、そのへんはご了承のほどを。

気楽に読める専門書<2>

マックス・ウェーバーの著作と伝記

法学部法律学科主任 河 島 幸 夫

私が東北地方のある大学に入学したのは、1961年の春、ちょうど60年安保闘争の翌年である。まだまだ安保の興奮さめやらぬ雰囲気が残っており、多くの学生が政治や人生の問題を真剣に論じ合っていた。

そんな中で私をとらえたのは、マックス・ウェーバー(1864~1920)の著作や伝記である。いうまでもなく彼はマルクスと並んで社会科学の世界に巨大な足跡を残したドイツの学者・思想家である。とりわけ私は、当時キリスト教青年会の寮で生活していたので、宗教と社会の関係を実証的に究明したウェーバーの著作に強く引かれたのである。かつてマルクスが近代資本主義を分析し、下部構造(生産関係)が上部構造(宗教や文化)を規定することを論証したのに対して、ウェーバーは、そこに一面の真理を認めつつも、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(全2巻、岩波文庫)を著して、上部構造が下部構造を規定する場合のあることを論証したのであった。

ウェーバーの分析の中で特におもしろいのは、本来およそ《カネもうけ》とは無縁な禁欲のプロテスタント(ピューリタン)であるカルヴァン派やバプテストなど諸分派のエートス(精神態度)が、なぜ近代資本主義を発展させる原動力となったのか、その内面的カラクリの説明である。私が最初に読んだのは、上記の論文をも収録した『ウェーバーの思想』(世界思想教養全集18、河出書房)というコンパクト版で、これには「職業としての学問」や「職業としての政

治」(いずれも岩波文庫版もある)などの小論文や解説も付いており、初心者には便利な本であった。この本を読んでから、もっとウェーバーについて知りたくなり、手軽な伝記・解説書として青山秀夫『マックス・ウェーバー』(岩波新書)や大塚久雄『宗教改革と近代社会』(みすず書房)を読んだ。いずれも今なお刊行中である。

ところでウェーバーがハイデルベルク大学教授時代にトレルチ夫妻と共に住んでいた三階建の家は、今も、ネッカー河をはさんで古城に対面する《哲学者の散歩道》のそばに立っている(ただし現在はハイデルベルク大学キリスト教青年会の寮になっている)。1972年、私がハイデルベルクに留学していた時、この町に来られた中村貞二氏(『マックス・ヴェーバー研究』未来社の著者)を案内して、ウェーバーの旧家と山あいの墓地とを訪ねたことがある。長時間の後やっと探しあてたウェーバー夫妻(マリアンネ夫人は伝記『マックス・ウェーバー』全2巻、みすず書房の著者として有名)の墓碑は、草むらの中にひっそりとたたずんでいた。その側面に刻み込まれた次の二つの言葉が、今も妙に私の心に残っている。

ALLES VERGÄNGLICHE IST NUR
EIN GLEICHNIS (移ろい行くものは、すべて一つの比喩にすぎず)

WIR FINDEN NIMMER SEINES
GLEICHEN (この人に及ぶ人なし)

(かわしま さちお：法学部教授・政治思想史)

お知らせ

○ 大学祭期間中の開館

11月12日(水)～15日(土)

9:00～21:00

※この間1階学習室は閉室

○ 冬季休暇中の開館時間および休館日

12月25日(木) クリスマス休館

26日(金) 9:00～21:00

27日(土) 9:00～12:00

29日(月) } 年末年始休館
1月5日(月) }

6日(火) } 9:00～21:00

7日(水) }

※この間1階学習室は閉室

(1月8日より平常通り開館)

○ 冬季休暇中の長期貸出

(下記対象以外は除く)

学部学生、専攻科生

12月16日(火)～1月7日(水) 5冊以内

留学生別科学生

12月16日(火)～1月7日(水) 10冊以内

大学院生

10月27日(月)～11月17日(月) 20冊以内

いずれも返却期限は1月19日(月)

○ 卒業年次生へ

卒論用に別途3冊(1ヵ月)貸出可能

卒業生(82期生まで)の卒論閲覧可能

(詳細は受付まで)

○ BOOK WORM ○

☆秋の夜長に、読書でも楽しんでみませんか、
図書館にはあなたをきっと満足させる本がいっぱいありますよ。

☆図書館は12月1日より暖房が入ります。



☆ 報 告 ☆

〈図書館委員会〉

61.7.10 ① 図書館業務の電算化について

61.9.18 ① 本学卒業生の図書館利用について

② 図書館業務の電算化のその後の進行について

〈研修・出張〉

○昭和61年度文部省委嘱司書講習

61.7.11～9.2 於：八幡大学

有森司書出席

○私立大学図書館協会第47回総大会・研究会

61.7.17～19 於：名城大学

川島館長、刀根事務次長出席

○昭和61年度第5回電算機事務処理利用研修会

61.7.23～25 於：静岡県

荒川係長出席

○第1回学術情報センター・シンポジウム

61.8.5 於：日本学術会議

今永課長出席

○データベース「トーマス・マン・ファイル」

利用者講習会

61.8.27 於：九州大学

川上司書補出席

○昭和61年度九州地区著作権講習会

61.9.11,12 於：長崎県

立石司書出席

○私立大学図書館協会九州地区協議会

昭和61年度九州地区研究会

61.9.26 於：別府大学

川島館長、今永課長、品川司書、香川司書補出席

○私立大学図書館協会西地区部会役員会・

秋季部会

61.10.2,3 於：神戸女学院大学

刀根事務次長、今永課長、工藤、田中(朋両司書補出席

○日本私立大学連盟昭和61年度図書館研修

61.10.6～9 於：愛知県

大羽司書出席